

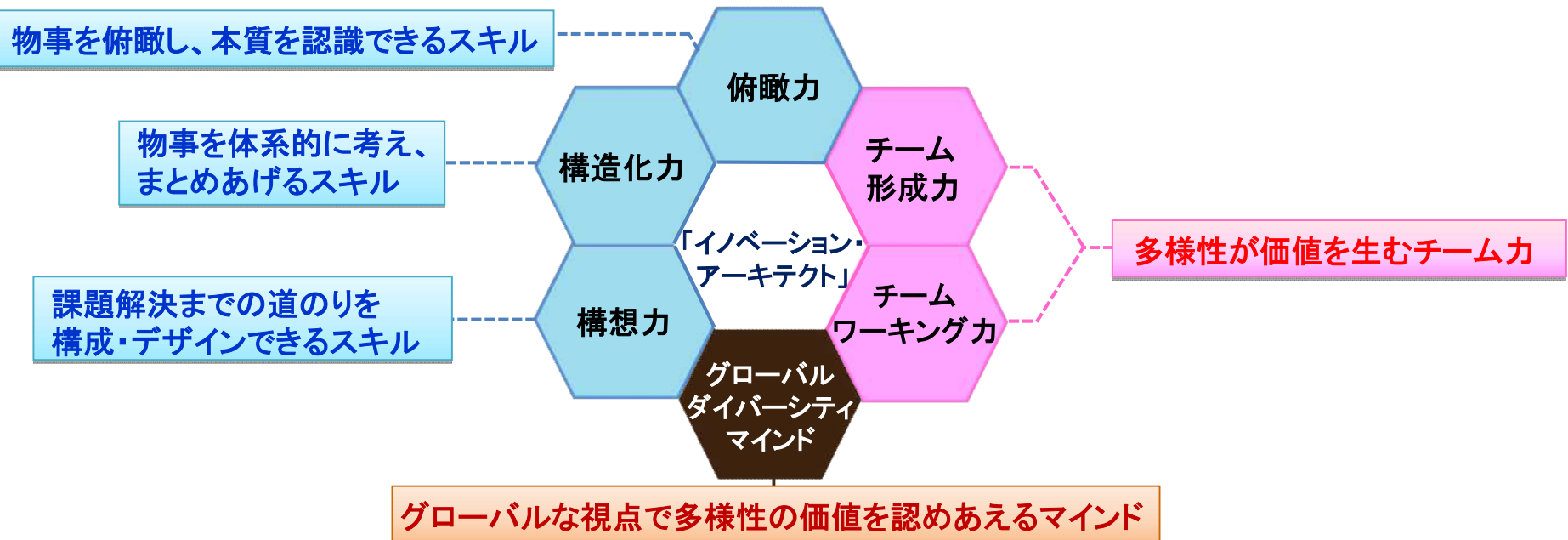
文部科学省 平成26年度グローバルアントレプレナー育成促進事業

イノベーション・アーキテクト養成プログラム

立命館大学

1. 目指す人材像とイノベーション・エコシステム

《チームで新たな価値創造ができる人材「イノベーション・アーキテクト」》

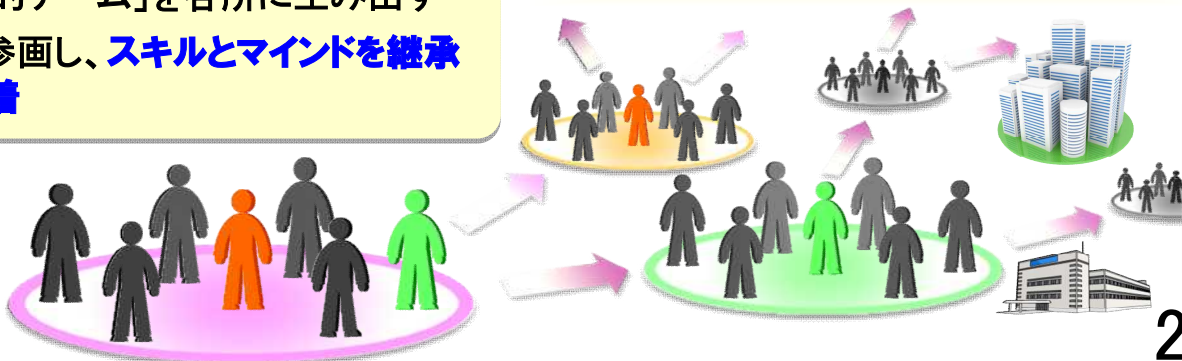


《「ひと」を軸とした「増殖型イノベーション・エコシステム」》

- 修了者が様々な「場」、「機会」で学んだことを**実践**
⇒組織内外の人的資源を結合し、「創造的チーム」を各所に生み出す
- 修了者が次のチームのリーダーとして参画し、**スキルとマインドを継承**
⇒本事業の成果の**継承・増殖と普及・定着**

起業家・企業内アントレプレナーなどとして活躍

立命館大学
「イノベーション・アーキテクト養成」



2. 実施する人材育成プログラムの内容

① プログラムの内容ー1

≪多様なメンバーからなる「チーム」での活動≫

■ ユニット・セル型

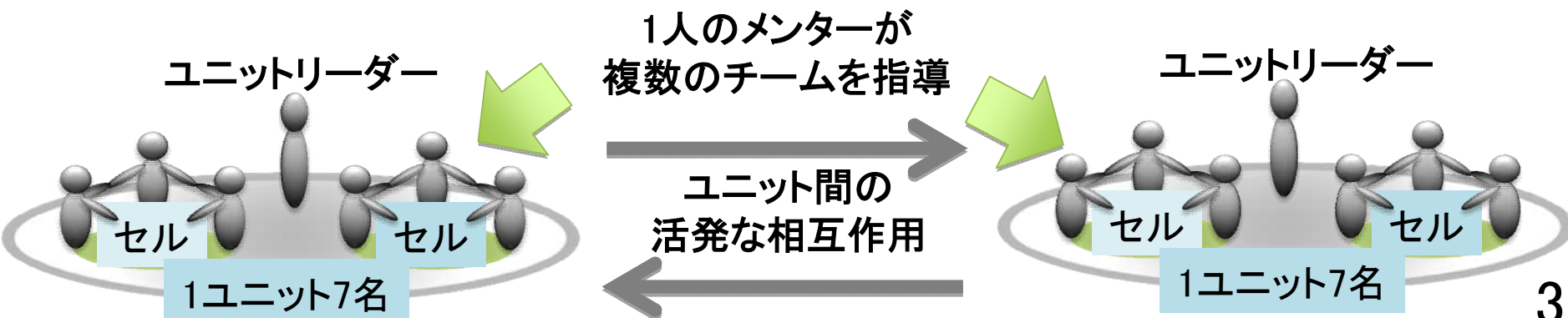
- ・ユニットメンバーは**7名を基本**とし、1つのユニットが1つのテーマについて1年間活動
- ・1名の**ユニットリーダー**の元で、**2つの「セル」**(各3名)が大チーム(ユニット)として活動
- ・ユニット単位だけでなく**セル単位でもフレキシブルに活動**するが、チームでの活動が原則

■ 多様な専門性を持つ受講生が混ざるチーム構成

- ・本学**全研究科・全課程**および**他大学**から受け入れた多様な背景の受講生からなる**文理融合の混合チーム**
- ・本学および立命館アジア太平洋大学に在籍する留学生も積極的に受け入れた**国際チーム**
- ・2年目以降は修了者がユニットリーダー

■ 産業界での豊富な経験を持つ人材がメンターとして指導

- ・一人のメンターが**複数ユニット**を受け持つ
- ・セル単位でのユニット間の行き来や一過的な融合など、**ユニット間の相互作用を活発化**



2. 実施する人材育成プログラムの内容

① プログラムの内容-2

《課題の抽出・形成・解決の3期/1年からなるプログラム》

■ 「シーズ型」と「ニーズ型」の2つのタイプのチーム編成

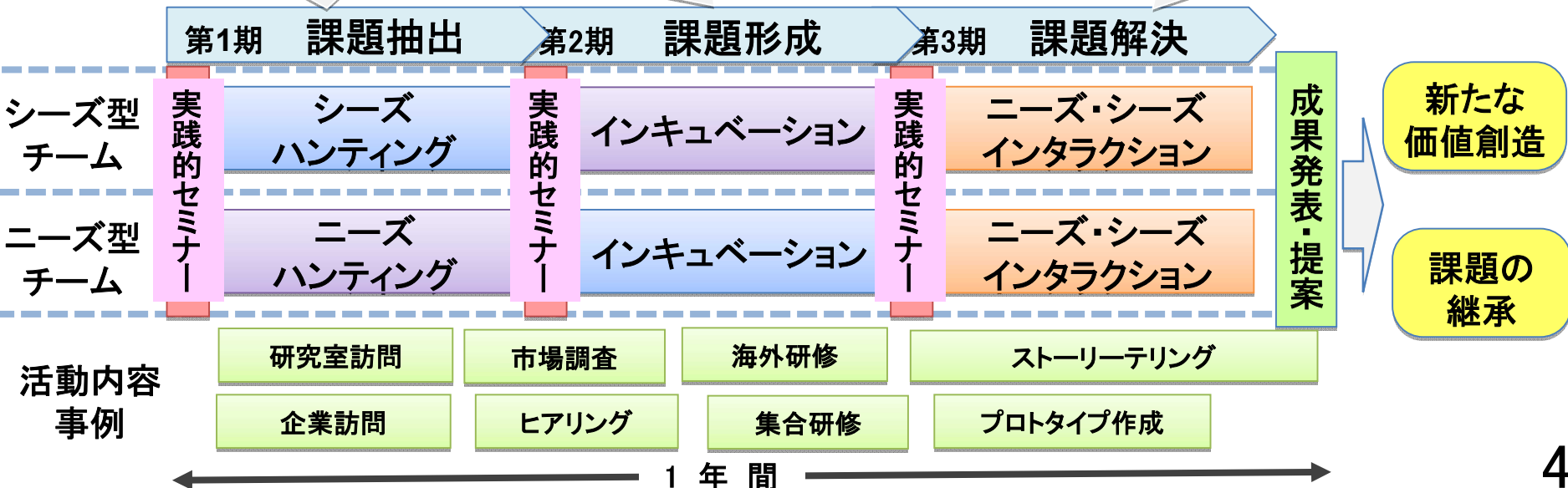
- ・「シーズ型」: 学内外の研究開発「シーズ」からスタート
- ・「ニーズ型」: 連携企業の課題、社会的課題などの「ニーズ」からスタート

■ 1年間を課題抽出(第1期)・課題形成(第2期)・課題解決(第3期)の3期に分けたワーク

・学内外の研究室や連携企業・団体などへ出向き シーズ/ニーズをハンティング

・シーズ型チーム: ニーズ側から考察
ニーズ型チーム: シーズ側から考察
⇒ 課題のインキュベーション・形成
・デザイン思考やロジカル思考の注入

・ニーズ、シーズの両面からの相互作用により新たな価値創造



2. 実施する人材育成プログラムの内容

① プログラムの内容-3 《「場」の設置と活用》

- 国内外に複数の「場」(拠点)の設置
- 海外連携大学を含む各拠点をTV会議システムで結び、グローバルにチームワークできる環境づくり
- 京町家という「場」を用意し、受講生による自主的なイベント企画等に活用

インド工科大学
ハイデラバード校
(デリー校)



インド

材料工学分野で
研究・教育連携



大阪いばらきキャンパス

大阪府 茨木市

- ・2015年4月開設
- ・経営学部、政策科学部、MOT大学院
- ・「デザイン科学研究センター」が中核拠点として実施

カリフォルニア大学
デービス校



アメリカ

健康・スポーツ科学
分野で研究・教育連携



立命館アジア太平洋大学
大分県 別府市

- ・世界83か国から2,500名の留学生



びわこ・くさつキャンパス

滋賀県 草津市

- ・自然科学系学部
- ・インキュベータ施設など

京町家
(京都市)

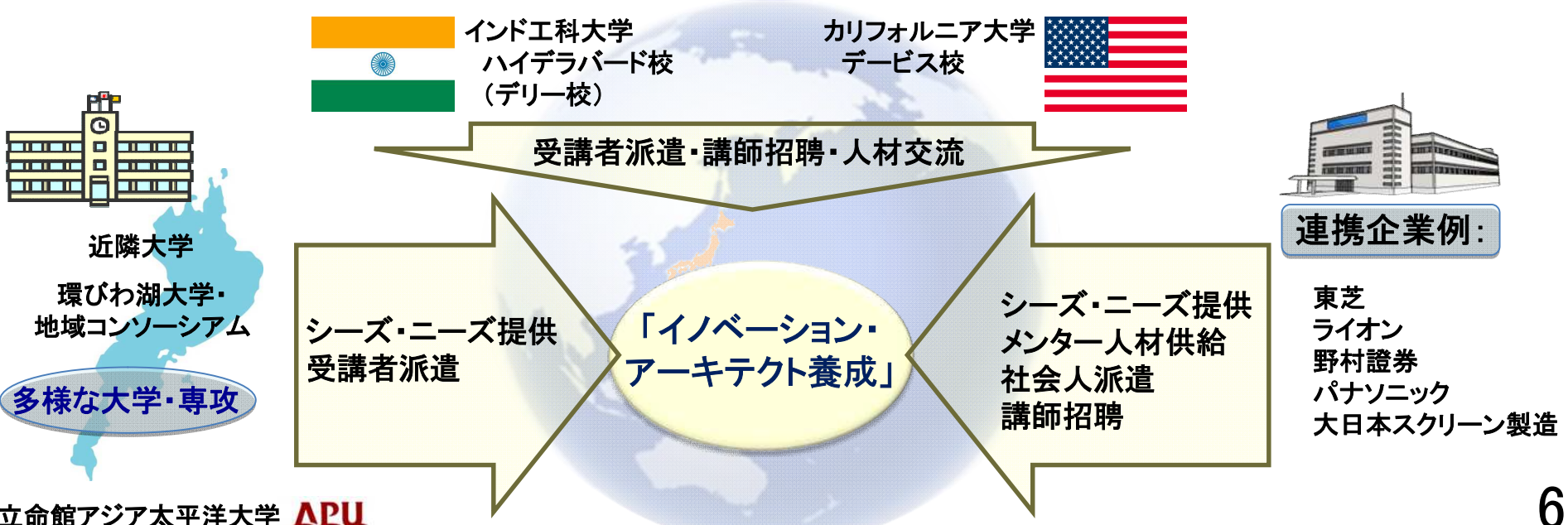


学外ナレッジ
スクランブル

2. 実施する人材育成プログラムの内容

② 外部機関との連携

- 国内大学**
 - 立命館アジア太平洋大学、近隣大学等の連携他大学からも積極的に受講生を募集
 - 国際チームや他大学チーム、様々な大学からの受講生から構成される連携チームなど
 - シーズ・ニーズ提供・受講者派遣など
- 海外大学**
 - インド工科大学(ハイデラバード校・(デリー校))・カリフォルニア大学(デービス校)との連携
 - 受講者派遣、講師招聘、人材交流など
- 連携企業**
 - 国内主要メーカー・金融・地域の小売業など多様な企業と連携
 - 立命館大学がこれまで構築してきた企業とのパイプを積極的に利用し、連携企業を拡大
 - シーズ・ニーズ提供・メンター人材供給・社会人派遣・講師招聘など



2. 実施する人材育成プログラムの内容

③目標、評価方法及び改善方法

到達目標

	1年目終了時	2年目終了時	3年目終了時
受講者	28名 (大学院生 20名 若手研究員 4名 他 4名)	77名 (大学院生 52名 若手研究員 7名 社会人 3名) 他 15名	77名 (大学院生 52名 若手研究員 7名 社会人 3名) 他 15名
チーム活動	4チーム	10チーム (国際連携 2チーム 他大学連携 1チーム)	12チーム (国際連携 4チーム 他大学連携 2チーム)
連携企業		2社以上(計8社以上)	2社以上(計10社以上)
	6社以上(東芝・ライオン・野村證券・パナソニック・大日本スクリーン製造・大垣書店)		
拠点整備・推進	・国内拠点および海外連携大学間整備	・大阪いばらきキャンパス内の「社会実装研究センター(仮称)」に「EDGE コモンズ」を開設	・国内4拠点を構築し、いつでも拠点間で議論ができる環境を整備 ・国内拠点と海外との連携を強化 ・社会人からのリーダー招聘を実現 ・受講者全員海外研修

評価方法および改善方法

- アドバイザリーボードを組織化、運営進捗管理、改善のアドバイス等を受ける
- 目標達成に向けた外部検証を実施し、PDCAサイクルを回し、プログラムを改善